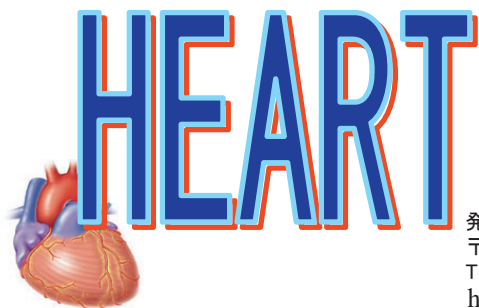




Department of Cardiovascular Medicine



東北大学病院 循環器内科広報誌 【第50号】

発行/東北大学病院循環器内科 平成30年10月30日
〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1
Tel:(022) 717-7153 Fax:(022) 717-7156
<http://www.cardio.med.tohoku.ac.jp/index.html>

「Heart」創刊50号を記念して

東北大学病院循環器内科 下川宏明

日頃より大変お世話になっております。私が平成17年7月に当科に着任し、**教室広報誌「Heart」**を平成18年8月に創刊し、年4回の季刊誌としてお届けしてきて、今回で第50号となりました。毎回、当科の活動報告に加えて、その時々話題をトピックスとして、また重要なテーマに関してワンポイントレクチャーとして解説記事をお届けしてきました。お蔭様で、地域の医療関係者をはじめ多くの皆様に好評を博してきました。今回は、創刊50号を記念してこれまでの「Heart」の記事を通して当科の歩みを振り返ってみたいと思います。

第1号(平成18年8月)

創刊号として、教室の体制のご紹介をしました。当時助教授(副科長)だった**加賀谷豊先生**は現在本学医学系研究科医学教育推進センター教授、講師(外来医長)だった**小丸達也先生**は現在東北医科薬科大学循環器内科教授、院内講師(病棟医長)だった**柴信行先生**は現在国際医療福祉大学循環器内科教授・同病院副院長、助手(CCU主任)の**安田聡先生**は現在国立循環器病研究センターの副院長・心臓内科部門長、助手(循環グループ主任)の**福本義弘先生**は久留米大学心臓血管内科主任教授に昇任しています。時の流れの早さを感じるとともに、当科から多くの人材が育っていることを誇りに思います。

第3号(平成19年2月)

平成19年4月から、「**東北大学病院循環器生涯教育講座**」を始めました。これまでに合計115回の講座に延べ7089名の参加がありました。

第7号(平成20年1月)・第8号(平成20年4月)

平成20年2月2日に「**第37回日本心臓血管作動物質学会学術集会**」を、同年5月9～10日に「**第8回日本NO学会学術集会**」を主催しました。

第11号(平成21年1月)

平成19年11月から「**循環器内科ホットライン(ハートホットライン)**」を開設し、24時間365日の急患受入れ体制を強化しました。

第12号(平成21年4月)・第13号(平成21年7月)

平成21年6月1～3日「**第10回血管拡張機序に関する国際シンポジウム(MOVD)**」を主催しました。

第20号(平成23年4月)・第21号(同年7月)・第22号(同年10月)・第23号(平成24年1月)・第24号(同年4月)・第26号(同年10月)

平成23年3月11月に発災した**東日本大震災**に対して、教室員が一致団結して被災地支援を行いました。また、宮城県下の循環器疾患の動向を調査し、心不全の急増と遷延化を世界で初めて報告しました。

第27号(平成25年1月)・第28号(同年4月)

平成24年11月30日～12月2日に「**第16回日本心不全学会学術集会**」を、平成25年2月1～2日に「**第6回日本性差医学・医療学会**」を主催。

第29号(平成25年7月)

東北大学病院**臨床研究推進センター**長に就任。同センターは、現在約160名の人員を擁し、わが国を代表するAROに発展しました。

第33号(平成26年7月)・第34号(同年10月)・第35号(平成27年1月)

平成26年9月26～28日に「**第62回日本心臓病学会学術集会**」を主催しました。

第36号(平成27年4月)

重症狭心症に対する超音波治療の医師主導治験を開始しました。

第37号(平成27年7月)・第39号(平成28年1月)・第40号(同年4月)

平成28年3月18～20日に「**第80回日本循環器学会学術集会**」を主催しました。

天皇・皇后両陛下のご訪問をいただきました(右図)。



第41号(平成28年7月)

「**旧第一内科開講100周年記念式典**」および「**第9回国際NO学会学術集会**」を主催しました。

第44号(平成29年4月)

平成29年4月に「**東北大学ビッグデータメディスンセンター**」が設立され、その初代センター長に就任しました。

第46号(平成29年10月)

平成29年9月14～16日に「**第8回国際性差医学会学術集会**」を主催しました。

第47号(平成30年1月)・第48号(同年4月)・第49号(同年7月)

アルツハイマー型認知症に対する超音波治療、および**難治性冠縮輪に対するRho-kinase阻害薬**の医師主導治験を開始しました。

今後とも、当科へのご支援・ご協力をどうぞ宜しくお願い申し上げます。



循環器内科急患ホットライン
365日24時間対応致します!

080-280-11810 (ニーハオ いいハート)

宮城県心筋梗塞対策協議会 40年のあゆみ

1. はじめに

「宮城県心筋梗塞対策協議会」は、昭和54年(1979年)に、故・瀧島任名誉教授が創設され、宮城県の救急医療の一環として、緊急性が特に高い急性心筋梗塞 (Acute myocardial infarction; AMI) に適切に対処してその予後を改善することを目的に設立されました。この協議会には、現在宮城県の主要循環器診療施設全 44 施設が参加しており、県下の AMI 症例のほぼ全例を長期間にわたって前向きに登録しています。今年には症例登録を開始して 40 年目となり、全国的にも大変重要でかつユニークな臨床疫学研究として注目されています。これまでも 現・下川会長指導の下、**1979年～2008年の30年間において我が国のAMIの発症率は増加した一方で、救急医療の進歩とともに院内死亡率は劇的に改善したこと**などを報告しています (Circ J. 2010;74: 93-100)。今回のワンポイントレクチャーでは、「宮城県心筋梗塞対策協議会」のデータベースから得られた日本人のAMIに関する最近の知見をご紹介します。

2. 急性心筋梗塞発症率及び院内死亡率の経年変化

「宮城県心筋梗塞対策協議会」のデータベースにおいて、近年のAMI発症率の動向を経年的に検討してみますと、1985年～1995年までは増加傾向でしたが、1995年～2014年の20年間では、ほぼ横ばいで推移していました。男女別に解析すると、男性では同様の傾向を認めた一方で、**女性のAMI発症率は、最近10年間(2005年～2014年)で減少**に転じていました(図1)。さらに年代別に検討すると、**59歳以下の若年者**では男女ともに**AMI発症率は30年間にわたって増加**し続けていました(傾向検定 $P < 0.01$) が、その一方で**70歳以上の高齢者**においては男女ともに最近10年間で**AMI発症率は減少**に転じていました(傾向検定 $P < 0.01$) (図2)。

院内死亡率については、男女ともに**1985年～2005年の20年間で著明な改善**が認められましたが、**直近の10年間はほぼ横ばい**に推移していました。年代別の検討でも、男女・各年代ともに同様の傾向を認めました(傾向検定 $P < 0.01$) (図3)。また、観察期間を通じて**男性に比較して女性の院内死亡率が約2倍高値**である傾向が持続していました。

さらに2000年～2014年におけるAMIに対する救急医療の変化について検討したところ、**AMI発症から来院までに要した時間は短縮**し、**Primary PCI 施行率の上昇**が認められており、AMIに対する救急医療体制のさらなる改善が達成されていると考えられました。しかし、その一方で、**AMI患者の高齢化や入院時におけるKillip分類2度以上の心不全合併率の増加**が認められ、近年のAMI患者の臨床背景は以前にも増して重症化していると考えられました。それらがお互いを相殺した結果、近年のAMI院内死亡率が横ばいで推移していると考えられました (Circ J. 2017;81:520-528)。

以上、「宮城県心筋梗塞対策協議会」のデータベースを用いた検討結果から、日本における最近30年間のAMI発症率及び院内死亡率の年代別動向、急性期治療の経年変化が明らかになりました。これだけの長期データを示しうるAMI疫学研究は、本登録研究しか我が国には存在せず、引き続きAMIに関する様々な知見を発信していく所存です。関連施設の先生方におかれましては今後ともご協力・ご指導の程、よろしくお願いたします。

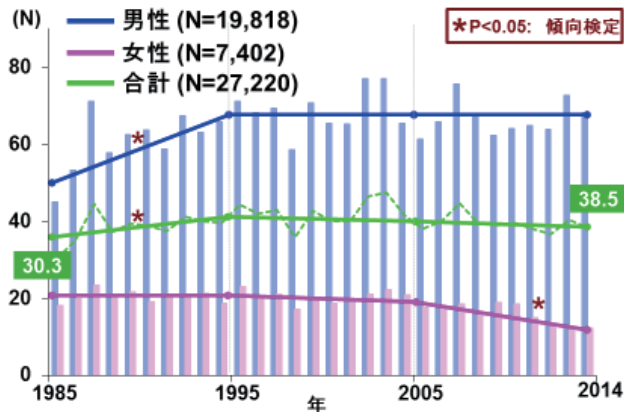


図1：年齢調整急性心筋梗塞発症率の経年変化

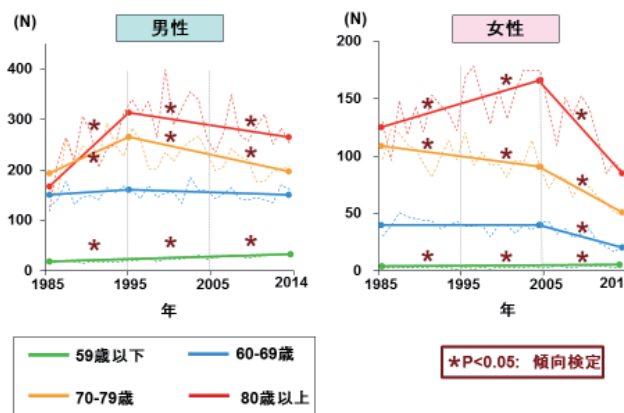


図2：年代別急性心筋梗塞発症率の経年変化

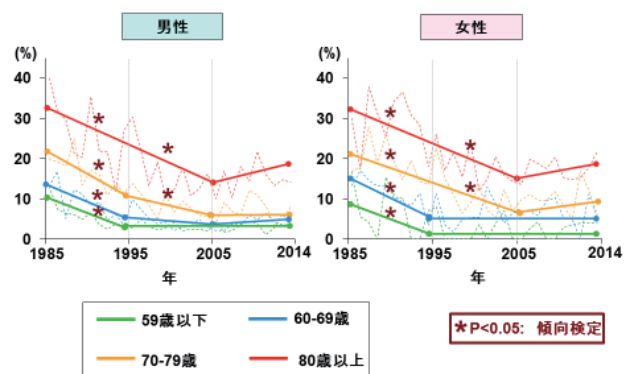


図3：年代別急性心筋梗塞院内死亡率の経年変化

(文責：羽尾清貴、高橋潤 (虚血グループ))



東北大学循環器内科では**肺高血圧症**の治療発展のため最先端の治療を行っています。**吸入薬の治験も始まり**ました。**また肺動脈血栓塞栓症による肺高血圧のバルーン拡張術も**行っています。**患者さんのご紹介をお願いいたします。**

東北大学循環器内科連絡先 (直通)

医局：022-717-7153
 FAX：022-717-7156
 外来：022-717-7728
 病棟：022-717-7786

患者さんのご紹介・ご相談にご活用下さい。緊急の対応は日中は外来医長が、時間外は日当直医(病棟)が対応いたします。本季刊紙「HEART」に関するご意見・ご質問は下記のメールアドレス、当科HPまで。
 kikanshi@cardio.med.tohoku.ac.jp
<http://www.cardio.med.tohoku.ac.jp/index.html>